

議題1「大正区将来ビジョン2025（素案）について」意見と対応一覧

【当日出された意見等】

テーマ	意見内容	委員名	当日の回答・意見交換	対応	担当課
1	<p>大正区将来ビジョン2025（素案）概要版のめざすべき将来像について、「人や文化が多様性に富み…」とありますが、素案を見ている限り、外国人に対してどのような対策を取るのかということが少し見えないような気がします。</p> <p>人や文化が多様性に富むということは、将来的に海外から来られた方も居住されるということ想定して書かれてると思いますが、健康で安心して暮らせるまち「大正」は、例えば分かりやすい標識等、日本人だけではなくて海外から来られた方に対しても安心して暮らせるまちをつくることを考えていかなければならないのではないかと思います。大正区でも外国人の方を見ることが多くなったので、そういうところもこの将来ビジョンの中に取り入れていただきたいと思っています。</p> <p>終委員は日本語学校をされていますが、海外から来られた方は、大正区についてどういうふうに言われていますか。</p>	角元委員	<p><古川 区長></p> <p>外国人対応及び外国人の人口増等に関しては、実は今回のビジョンではあまり触れていません。しかし、南委員が仰るように、将来人口を真剣に考えた場合、このまま放置していると人口は減少し、大正区にかかわらず国自体がシュリンク、いわゆる萎縮していくような状態は、誰の目にも明らかです。ある意味方向転換し、だったら外国人を呼んでしまおうと舵を切ることも確かに施策の一つなのかもしれません。まだそこまで踏み込んだ検討が大正区内ではできておりません。移民やこの国の門戸の開き方によっても影響がかなり違うということ、特に大正区はものづくり企業さんが多くいらっしゃいますので、外国人労働者がどのような形で定着していくかという我が国の施策も見ながら検討してまいりたいと思います。</p>	<p>委員のご指摘を踏まえまして、1つ目の柱である健康で安心して暮らせるまち「大正」と4つの柱を支える共通の取組に外国人に関する現状と課題及び施策について、将来ビジョン2025（案）に取り入れました。</p> <p>《掲載場所》</p> <p>8ページ 2 区の人口に関する統計データ 20ページ（5）人権の尊重 ア 現状と課題、ウ 施策 43ページ 4 情報発信・伝達力の強化（3）施策 45ページ 6 区役所職員のスキル向上（3）施策</p>	総務課（庶務）
2	<p>大正区というより日本についてですが、やはり住み慣れない国であるので、まず日本文化の習慣等がとっつきにくい。初めは慣れない生活で苦しんでいます、だんだん順応してくるところはあります。</p> <p>最近うちの学生で、10月末から11月ぐらいいかけて交通事故が多く、やはり母国と日本では交通状況が全然違うため事故を起こしてしまう。大正区では自転車を使うことが多く、それも結構道が細かったり標識がなかったり、例えば高速の車専用道に入っていってしまい、事故を起こしてしまうといったこともあります。</p> <p>また、駅前の駐禁の所について、一応指導はしますが間違っ置いてしまうことがあるので、また駐輪場等も増えたらいいなというところは、私の実感であります。</p>	終委員	<p>最初のお話にありました外国人に優しいまちかどうかということも含めまして、多様性に富んだ大正区というのは、にわかには外国人だけを指したのではなく、沖縄、九州等から移住してきたルーツを持つ方々も含めての言い方になっております。しかし、外国人という意味でも共通ですので、その方々にやさしい日本語を使い、多言語で窓口対応するなど、できることはやっていきたいと考えております。</p> <p>多様性を大事にするまちであれば、大正区が日本人の方も含めて垣根が低くなるのかなというふうに拝聴しました。外国人との垣根が低ければ、外国人の方も居心地がよい。それがまた口コミで広がって、大正区に住むまちとして選択していただけるということもあるのかなと思いました。なので、人口も増えるのではないかという御提案にもつながり、示唆に富んだ話だというふうに拝聴いたしました。この辺りをセットで、これからも引き続き考えていきたいと思っておりますし、また、ビジョンの中に外国人の対応を、最初のところあたりで触れるよう修正したいと思っております。ありがとうございます。</p>	<p>外国人に向けた交通ルール・交通マナーの啓発につきましては、大正警察において今年度2回の講習（外国人学校での座学・実技）を行っているほか、区役所におきましても、委員のご意見を踏まえ、当区のSNS(ツイッター、フェイスブック)において大阪府ホームページに掲載されているマナーブックのリンク先を発信いたしました。</p> <p>なお、駐輪場の整備につきましては、大阪市全体で人口増加が続く都心部を中心にその必要性が精査されるため、当区での新規設置は難しい状況ですが、大正区役所では、「大正区将来ビジョン2025」P24に記載のとおり、放置自転車対策として自転車啓発指導員（サイクルサポーター）を配置し、放置自転車の整理作業や駐輪場利用の啓発などを行っておりますので、今後は啓発物（エフ）を多言語表示にするなど、外国人に向けた啓発方法を検討してまいります。</p>	地域協働課（防災防犯）
3	<p>2週間ほど前に港区長と生野区長のフォーラムを聞かせてもらい、そこでは両区長とも明確に人口を増やすには外国人を積極的に引き入れていくという方向性を出していました。積極的にやさしい日本語の標識をつけたり、外国人でも分かるような工夫を、色々なところをしていこうと。このまま日本人は絶対に増えないので、完全に考えを切り替えて人口を増やしていこうとしていたのですが、その点、大正区はどう考えているのか聞かせていただければありがたいです。</p>	南委員		回答済み	総務課（庶務）
4	<p>大正区将来ビジョン2025（素案）について、45ページをこの時間だけで質問するのは無理がある。青年会のようなものを作って、そこでも話をしていますが、しっかり議論をするなら、もう少しキャッチボールができるような場を設けていただけたら、やりやすいのかなと思います。また、こどもの未来が輝くまちについて話すごとくに若い女性がいなことが、その時点で「誰がしゃべってんねん」みたいな話かと。区政委員の選り方から考えないといけないと思います。</p> <p>私たちも今回、とても勉強させてもらいましたし、ここに来ないとこんなことを考えないだろうなということばかりだったので、今後、周りにもっと積極的に入るよう話はしていくと思いますが、私たちがやってもその若い子育て世代のお母さんはなかなか呼び込めないところかと思っております。そこら辺をどう改善していくのか、もし考えがございましたら教えていただきたいと思います。</p>	南委員	<p><大津 区政企画担当課長></p> <p>委員の皆様については、公募と地域団体からの推薦ということで引き受けていただいております。1年後に委員の改選がありますが、おっしゃるような、子育て世代のお父さん、お母さんにも、ぜひこの会議に参加していただきたいと思っています。つい最近ですが、総合教育会議の委員に、区政会議の委員に入ってくださいよう声をかけたり、PTAの方にも事あることに声をかけたりしています。次の改選のときにはそういったことができればいいなと思っております。</p>	回答済み	総務課（庶務）

議題1「大正区将来ビジョン2025（素案）について」意見と対応一覧

【当日出された意見等】

テーマ	意見内容	委員名	当日の回答・意見交換	対応	担当課
5 健康寿命の延伸	<p>大阪市は全国的に見ても検診の受診率が特に低く、医療機関に勤めている者としても、これを上げていきたいと思ってもなかなか難しいというのがあります。事前回答について、大体は納得ですが、健康寿命の延伸において目標の受診率は「すこやか大阪21」まで読まないといけないのかというのがあります。まだ私は知っていた方ですが、普通の人は「すこやか大阪21」まで読まないと思うので、数字を明確に載せておくことで、ほかの医療機関でも何か一つ具体的に頑張ろうかな等、見えるんじゃないかなと思います。「大阪市ではこれぐらいの受診率をめざしています」と書いたらいいのかなと思いました。</p>	姉川委員	<p><古川 区長> もう少し見える化したほうが効果があるのではという点につきまして、去年から広報でトライアルしているのは、大正区は数値が低いということをあえて出したり、健康上このままだとうとうとうとうというふうな、ある程度想定されている行く末も少しリアルに出して、危機感をあおるまではいきませんが、少し課題認識を区民の方に持っていただくという広報に努めています。 事前回答に書いてあるような具体的に目標を明記する方向性に加え、皆様に数値の深さを分かっていただくような見える化をこれからも続けたいと思っています。</p>	<p>委員のご指摘を踏まえまして、健診等の受診率について施策目標として、将来ビジョン2025（案）に取り入れました。 《掲載場所》 17ページ（3）健康寿命の延伸 Ⅰ 施策目標</p>	保健福祉課 （健康づくり）
6 こどもの「居場所」	<p>こどもの居場所づくりについて、そういえば大正区は学童保育所が1か所もないなと思いました。役員をしているので、大阪市とはいろいろやり取りをしています。学童保育所は民設民営で、大阪市の留守家庭事業において大阪市から補助金をもらって実施します。基本的には独り親家庭か共働き家庭の方を対象とした事業ですが、共働きや独り親家庭が増えている中で、なぜ大正区だけないのかというのが一つ疑問になりました。 もちろんこどもが少ないということもあると思いますが、特に今、小1の壁とって、こどもが小学生になると預けるところがなくて働きたくても辞めざるを得なかったり、パートになったりと、難しいところがあると全国的にもニュースになり、よく知られてると思います。 大阪はいきいき事業がありますが、預かってもらっている親の実感としては、いきいきと学童保育は全然違うものだと思います。一長一短があるのでどちらがいいとは言えないですが、学童保育は特にこどもたちの放課後の居場所になっています。大阪市の事業なので区が独自で行うことはなかなか難しいのかもしれませんが、もし学童保育所のようなところが増えたら、「ここは子育てしやすいまちだな、ここだったら安心してこども育てられる」となるんじゃないかと思ったので意見させてもらいました。</p>	姉川委員	<p><大津 区政企画担当課長> 学童保育については、以前は1か所だけありましたが、おっしゃる様に現在はいきいき事業しかやっていない状況です。もしそのような学童保育のお話がまたあるようでしたら、お聞きしてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。</p>	回答済み	保健福祉課 （こども・教育）

【当日出された意見等】

テーマ	意見内容	委員名	当日の回答・意見交換	対応	担当課
7 こどもの「居場所」	区が先導してこどもの「居場所」をつくることについて、どんなことをしているのかピンと来ないので、その現状とあるべき姿等、もう少し分かりやすい形で教えてもらいたいと思いました。	土井委員	<p><前田 こども・教育担当課長> 居場所の定義について決まったものではありませんが、例えばよく言われるのがこども食堂や、学習や宿題等するような場所、大正区では宿題カフェという名前でやられてるところもあります。 現状について、区役所と区社会福祉協議会が共有するこどもの「居場所」は、小学校区10地域中6地域にあります。しかし実際には、宿題カフェやこども食堂等、各地域色々な形でこどもの「居場所」をされており、正確な数字は把握しておりません。姉川委員につきましても、この夏から大正区でこども食堂を開催していただいております。12月22日もこども食堂を開催するとお聞きしています。 めざすべき将来像について、区が地域に直接「居場所」をつくるのではなく、地域がこどもを見守り支援する「居場所」をつくっていくために、助成金等の情報を提供しながら支援していきたいと考えています。 もう一つは、小学校・中学校で課題のある児童生徒について区役所や学校園、地域等が連携して支援する「こどもサポートネット事業」を実施しています。それと一緒に、「こどもサポートネット事業」で対象となった課題のあるこどもの中で、学習が遅れているような方について、学習の支援や登校の支援を行う「学習・登校サポート事業」を大正区独自で実施しています。その中には、例えば不登校等、これまで支援につながりにくかった方もおられます。現在、不登校というのは全国的に増加傾向にあり、大正区においても不登校の方は多くなっています。そういった方を支援につなげるよう、まだ予算の編成過程ですが、学習・登校サポート事業の中で、大正区役所内に「居場所」を提供してみようと思っています。 地域でこどもを見守る体制を支援するとともに、行政としても課題を抱えた方々を支援するような「居場所」を提供することをめざしながらやっていきたいということをお示しを今回ビジョンに示させていただいております。</p> <p><村田 副区長> 「地域で居場所」と言いますが、「居場所」は1つでなくてもいいと思っています。箱物があって、そこで誰かがずっとこどもを見ているという居場所だけでなく、地域全体が「居場所」でもいいじゃないかと我々は考えています。 餅つきや運動会、お遊びのピバフェスタ、小学校の行事やこどもたちにお菓子を配るイベント等、地域でみんな見ている三軒家西のようなところもあります。 また、泉尾東地域では宿題カフェというように、月に何回か地域の女性方がこどもたちを集めて宿題をしてもらい、それが終わった後にはお楽しみの御飯があったり、ゲーム大会をやったり、そういう「居場所」もあります。 他には、例えばICTクラブのようなプログラミングを教える場所をついたり、先日の総合教育会議では、とある地域のPTAがボードゲームをしたい人を集めて遊ぶところをついたり、新しく地域の福祉会館が建て替わるから、そこに誰かがいつもお茶を飲んでいたらいいじゃないかと、そういうところも考えています。 いろんな形態の「居場所」が10地域毎にあってもいいですし、10地域以外でも、まちづくり実行委員会や社協、姉川委員のようなところ等、いろんなところがこどもたちを地域で見ている。「あのおっちゃん知ってるよ」「こないだお菓子もらったよね」そういう関係づくりができればいいと思います。 それが我々が今考えているめざすべき「居場所」ですので、将来ビジョンにおいて、家庭・学校以外の場である「居場所」は括弧がついています。普通名詞ではなくかぎ括弧して、固有名詞として使用するよう、区役所内で議論してこのようになりました。いろんな「居場所」があってもいいよということを考えていきたいと思っています。 また、先ほど言いました不登校のこどもたちを見ると、学校もしんどい、家もしんどい、それなら区役所に来たらいいじゃないかと、そういうところもつくってほしいと考えています。 不登校で困っている、いろいろと悩みを抱えているこどもたちが地域で人間関係をつくるための場所、そういうところの二本立てで事業をやっていきたいと思っています。 細かく書いていないのは、現在、予算要求段階ですので、予算が通ったら事業・業務計画書に細かくどんなことをするのか、きちんと書いて出してほしいと思います。</p>	回答済み	保健福祉課 (こども・教育)

議題1「大正区将来ビジョン2025（素案）について」意見と対応一覧

【当日出された意見等】

テーマ	意見内容	委員名	当日の回答・意見交換	対応	担当課
8	<p>こども食堂について、どんな感じで出されているんでしょうか。コロナで一切手作りができなくなり、老人の給食も業者のお弁当を配布しています。よその地域では、お菓子を配ったりパンを配っている等聞いたことがあります、どんなふうになさってるんでしょうか。</p>	仲田委員	<p><姉川委員> 今は会食形式が全くできないので、寄附いただいた物品等を配布するという形にしています。大正では食材だけをやっていますが、もう一つ、もともと西区でこども食堂をやっていまして、そこでは食材配布プラス助成金等が降りたときは、お弁当を配布するようにしています。 みんなで集まって食べることができないというのは、私の中では「居場所」じゃないと思っていますが、大正のほうでは細々と続けて関係性をつくっておき、コロナが明けたときに、「ここでこども食堂をやってるんや」と覚えといてもらうための、今は種まきなのかなと思っています。やっぱりいつかみんなで一緒に食べるということがしたいと思っています。 余談ですが、港区のほうでは少しずつ何か始めてると聞いています。特にすごいと思うのは、町会で高齢の方もこどもと一緒に食べるということをされていて、私は実はそれが一番やりたいと思っています。こども限定ではなく、誰もが寄れる場所にしたくて、西区でやっていたときに、町会でぜひ高齢者の方と一緒にこどもも食べれるような形がつかれませんかと区役所に訴えに行きましたが、それは町会の判断なんだろうということでした。今、港区の田中食堂だったか、田中・夕凧のほうでみんなで食べており、理想としてすごくいいなと思っています。</p>	回答済み	保健福祉課 (こども・教育)
9	<p>鶴町もこども食堂がありました、コロナでこどもを集めてというのが難しくなり、したくてもできなくなりました。 しかし、振興町会でそういうこども食堂に補助しようとなると、やはり資金的な問題が出てくる。個人でやるために、余った食材をこども食堂に回そうという運動がテレビでもよくありますが、提供してもらえる量というのは、各地区のこども食堂に必要な食材の量とは全然かけ離れた量だと思います。そうすると、こども食堂を持続するためには、個人の寄附だけに頼るのは難しく、やはり資金的な援助、補助がどこから定期的に入ってくないと難しい。そういう面もあり、やりたくても一歩を踏み出せないという方もいらっしゃるようには聞いています。 しかし、コロナ感染症の問題がいまだに尾を引いていますし、この週明けから全国的に16万、17万、一番多いときで19万何人の新規感染者が出ています。2〜3か月前には、8波が始まるという話が報道で流れていましたが、この1か月、第8波というような言葉は耳に入らない。しかし、現実には、全国で十何万人、大阪府だけでももう1万人前後の方が毎日発症し、死亡者も増えている。この状態がもう少し上がってくると、年明けにはやはり何かの規制が出てくる可能性もある。その対応を区役所はどう考えているのかをお聞きしたいと思います。</p>	大石委員	<p><村田 副区長> 各地域の皆さん、工夫されながらいろんな行事をしていただいております。 本日はその場で食べさせてあげたいけども、お持ち帰りという形にしたり、とある地域では、朝のふれあい喫茶にこどもたちと一緒に御飯を食べるというのをやっているか、もしくは、やりかけたところあるんですが、このコロナで結局できなくなったところもあります。 高齢者の食事サービスでも会食をやっているところでは、お弁当にして、みそ汁だけは作る等、徐々に復活してきている状況かと思っています。 今日も平尾の百歳体操に行ってきましたが、百歳体操でもお年寄りの皆さんがだんだん集まってきている状況になっていきますので、少しずつ行事は復活しているというふう感じているところです。 しかし、おっしゃったように、またコロナでやり戻しが来て、しんどくなってくるというのはやむを得ない状況かと思っています。 もしコロナがなかったら、お金の面はどうするのかという御質問について、地域によっては社協からのお金、大阪市の社協の基金等の財源を使ったり、2割5分は自己負担しなければいけないというお話がありますが、まちづくりのお金でできているところ等、いろいろあるかと思っています。 こども食堂だけでなく、「居場所」をつくる際の資金面というのは、各地域でいろんな方法があるかと思っていますので、我々、区役所も、皆さんと一緒に知恵を出しながら考えていきたいと思っています。</p>		保健福祉課 (こども・教育)
10	<p>三西地域においても、朝御飯を食べてこないで来る生徒がたくさんいるので、年に何回か、お年寄りも申し込んでいただいて、一緒に朝御飯を食べるということを今までやっておりました。女性会等の役員が全員行き、もし何かあったときは、後でその方がどういう手順で作ったかということを全部調べられるように、味見する人は味見する人、みそ汁作る人はみそ汁と係を決めてという形でやりました。</p>	北川委員			保険福祉課 (こども・教育)

【当日出された意見等】

テーマ	意見内容	委員名	当日の回答・意見交換	対応	担当課
11	<p>大正区は基本的にバスのまちで、主に交通の手段はバスか歩きか自転車であり、自転車に乗ってる人が非常に多いです。もちろん大正区の駅前やその付近には駐輪場がありますが、路上駐車をしていたり、特に駅前等は人が自転車専用道路を塞いで歩いたり、もう少し自転車のルールをまちで取り組むような仕組みが必要なのではないかと思いました。</p> <p>それは外国人が来られて事故を起こしたことが数件あったことありますし、私自身もヒヤリ・ハットという形で、交差点で歩いている方と自転車がぶつかるか、逆に私が歩いているときに急激なロードバイクのような自転車でひかれそうになったりということがあったので、その危険を排除するという取組は必要なんじゃないかと思いました。</p>	角元委員	<p><中務 防災防犯担当課長> 大正駅前の駐輪禁止区域の看板について、外国人の方でも分かるような表示の仕方を御意見いただきましたので、道路管理者である建設局に申し伝えたいと思います。また、交通ルールの関係についても、警察とタイアップしながら前向きに考えていきたいと思っています。</p>	<p>大正区役所では、「大正区将来ビジョン2025」P24に記載のとおり、放置自転車対策として自転車啓発指導員（サイクルサポーター）を配置し、大正駅前など各拠点において放置自転車の整理作業や駐輪場利用の啓発などに取り組んでいます。</p> <p>また、大正警察や地域団体と連携し、11月の自転車マナーアップ強化月間や春と秋の全国交通安全運動に合わせて、交通ルール・交通マナーの遵守を呼び掛けているところです。</p> <p>外国人に向けた啓発につきましては、大正警察において今年度2回の講習（座学・実技）を行っているほか、区役所におきましても、委員のご意見を踏まえ、当区のSNS（ツイッター、フェイスブック）において大阪府HPに掲載されているマナーブックのリンク先を発信いたしました。</p> <p>今後も、外国人を含む区民に対する啓発について、大正警察や地域団体、関係機関と連携して取り組んでまいります。</p>	地域協働課（防災防犯）
12	<p>先月の安全交通週間に、三西小学校において大正警察による子どもたちの自転車マナー等の交通指導をしていただきました。</p> <p>大正区は大正通等のメイン通りを一步筋へ入ると、ほとんどが一方通行になっています。道幅も昔のままのところが大変多く、5m、10m行くと、すぐ四つ角に突き当たるとい状態です。子どもの見守り活動を行っている中で、前後に子どもを乗せたまま、スピードを緩めず四つ角を突っ切っていく親がいます。中には、車が四つ角に進んできているのに、その前を横切っていく人もいます。私が四つ角の所に立っている時は、両方から来て当たってしまうと思ったら、片一方を止めたりしていますが、本当に危ない状況が大変よく見かけます。</p> <p>親も共働きで急いでいる等あるんだろうと思いますが、学校で子どもたちに一生懸命自転車の乗り方を教えているのに、親がそのようなことをしていたら、少し考えさせられます。学校の実行委員会や各町会連合、各女性会等、各場で親の自転車の乗り方のマナーを指導していき、全体的に盛り上がっていったらいいのかなというふうに感じました。</p>	北川委員	<p><古川 区長> 私も東京から来たんですが、東京よりさらに大正区は自転車が疾走しています。これはなぜかということ、東京にいと分かるんですが、東京は道があれだけ広くないんです。路地一本入ると狭いというお話がありましたが、少なくとも大正通のあの広さは、東京の者からすると目を見張る広さです。やはりそれは再開発をしっかりやった大正区の成果なんです、その分、自転車が疾走しています。</p> <p>なので、皆さんがおっしゃるように、マナー啓発というのがこれから大事になってくると思いますが、このビジョンの中ではなかなか触れにくいのですが、一つきっかけがあります。今年の4月に道路交通法が改正になり、ヘルメットが義務化されます。これは努力義務化ですが、大人もヘルメットかぶらなくては行けない。今年4月に成立し、1年以内に施行ということなので、来年の4月には「大人もヘルメットかぶりましょう」キャンペーンを、多分警察さんがやり始めると思っています。この辺りの流れをつかんで、我々と大正警察さんと一緒に工夫して、マナー啓発もやっていければと思ったところです。</p>	<p>区内における自転車関連事故の多くは、大正通沿いで発生していることから、大正警察においても、大正駅前交差点から大連橋交差点までを今年度の「自転車指導啓発重点地区及び路線」として選定し、街頭啓発活動や交通指導などの取り組みを強化中です。</p> <p>区役所としましても、大正警察や関係機関と連携しながら、大阪府作成の年代別（幼児・小学生とその保護者や高齢者など）のリーフレット等、啓発ツールをご提供するなど、学校園や町会・女性会などの各地域での啓発を支援してまいりたいと考えております。</p>	地域協働課（防災防犯）
13	<p>前は各地域で自転車のマナーアップということで、子どもたちやその親に自転車の乗り方等を指導していましたが、警察の場合、コロナ禍ではあまり活動を行っていません。</p> <p>実際見ていると、信号が赤でも、車が来ていても走るし、特に大正区の43号線、中通りの信号が長いから、青になると交差点を突き切って一目散に走っていき、危ないなと思います。少しマナーが最近悪いように感じます。</p>	竹村委員		<p>各地域におかれましては、従前より自転車のマナーアップや乗り方指導など、地域防犯力の向上に取り組んでいただいているところですが、地域における自転車のマナーアップ等の取組につきましては、民間事業者が社会貢献(CSR)活動の一環として取り組んでいる出前講座等を活用いただくことも可能です。</p> <p>今後、地域において自転車啓発を予定されている場合は、担当までお声がけください。大正警察との連携や、これらの教育資源をご活用いただくことで、区役所・地域・関係機関が一体となった「安全で安心して暮らせるまちづくり」を進めてまいります。</p>	地域協働課（防災防犯）

【当日出された意見等】

テーマ	意見内容	委員名	当日の回答・意見交換	対応	担当課
14	経営課題5「4つの柱を支える共通の取組（地域活動の活性化）」について、スポーツ大会というのは主にどんな競技というのがあるんですか。今まで、野球やキックベース等はありませんでしたが、また新たなスポーツの取組を考えている等、何か具体例はあるんでしょうか。	角元委員	<p><村田 副区長> 今回なぜスポーツ大会を始めようかと思ったのか、以前はファミリージョギング大会や区民ハイキング等、体を動かすイベントがあったんですが、この間、コロナの関係や予算の削減等、いろいろ原因があって行えていませんでした。 今回、このスポーツ大会をやることによって、地域の担い手を掘り出すと言ったら失礼な言い方ですが、地域で見つけてくることをできたらと思っています。 先日の区民まつりで、キャタピラーレースや土のう積みリレー等、地域対抗競技がありました。地域の皆さんがすごく盛り上がりました。また、地域の皆さんだけでなく、今まで我々も存じ上げなかった方が参加して盛り上がったというのがありますので、地域の新たな活動の担い手の掘り起こしに取り組みでいければと考えています。 スポーツ大会で何をやるかという御質問について、もし参画していただけるのであれば、スポーツに関わる団体、あるいは子どもたちを日頃見守っていただいている団体等と一緒に、実行委員会か運営委員会をつくりながら、皆さんと一緒に考えましょう。地域対抗の100メートル走や以前行っていたリレーもいいと思いますし、大縄跳びもいいと思います。また違うことも知恵として出てくるかもしれませんので、役所で決めるのではなく、地域の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。</p> <p><古川 区長> 補足ですが、今、村田副区長から話していただいたのは、先ほど私とスタッフとの間で話したばかりの内容で、まだ生煮えの状態です。これを地域の皆さんに投げかけて、どういう形がいいか話し合っていくことと決めただけなので、今は情報の一端です。</p>	スポーツを通じて幅広い年代のコミュニティを育成、また活性化を図ることができるよう、子どもから大人まで誰もが気軽に参加できる競技を中心とする内容で実施予定です。また、事業は区内スポーツ関連団体等と連携して企画会議等を実施し運営することになります。	地域協働課 (地域協働)
15	地域活動の活性化 区民としての声ですが、たまたま知り合いの娘さんがクリケットの日本代表選手と知り、とてもびっくりしました。クリケットはなかなか知り得ないマイナーな競技と言われますが、実は世界の競技人口第2位らしいです。イギリス発祥で野球のルーツと言われ、ボールを投げて、木のバットで打つんですが、木がとても特徴的な形をしています。今、競技用に使っているバットは、全部輸入の海外製品のものですが、委員にはものづくりの方が多く、「大正区でバットを作り、メイド・イン・大正区という形にして売り出したらめっちゃ売れるのでは」という話になりました そういう競技人口を増やすというのと、このスポーツ大会を掛け合わせ、大正区がクリケットのまちのようになれば、海外の人も生活する人も増えるし、メーカーとしてものづくり企業も躍起になる。そこから、そこで働きたい附属の人が集まってくるんじゃないかということで、非常に盛り上がりました。何かわくわくする場というのをどんどんつくっていきたくて思っているんで、クリケットを少し頭の中に入れておいていただければと思っています。	角元委員	<p><大津 区政企画担当課長> 先日のものづくりフェスタの際に、10年先のまちを元気にする発明アイデアにおいて、土井委員から「モルックを通じてまちを元気にしよう」という御提案をいただきました。モルックについて調べると、これなら誰でもできる面白い競技だということで区役所の中でも盛り上がりまして、モルック部をつくらうか等と話も出ておりました。また、物自体も木製で、まさにものづくり企業の方でも何か作ってもらえそうだと話もしていましたので、そういうこともできたらいいなと考えております。</p> <p><古川 区長> ものづくりの観点から答えに持っていきますが、先の話ですが、区を挙げてメッカのような競技を作ることが可能になったら、ぜひものづくり企業さんが、その製品化のメッカになっていただくということで、連携しながら、大正区の知名度アップに御協力いただけたら幸いです。クリケットのバットの相当の部分も木製ですし、モルックの器具も北欧のオリジナルの器具なので、それを国産で賄っていったら、それぞれ面白い取組になるかなと思いました。ものづくり企業たちの発案と、この競技そのものの盛り上げも併せて期待したいなと思っております。</p>	回答済み	地域協働課 (地域協働)
16	前回、モルックに関する提案をしたときは、区長の口から実現可能性32%という答えが返ってきましたが、少しは上昇機運があると見ていいんですか。楽しみにしています。 児童遊園の有効活用という点で、将来ビジョンのめざすべき将来像に合致するような形で進められるのではと改めて思ったので、ぜひ御一考いただければと思います。 こういう一区民の声が、区でもんでもらって実現するという事例を手軽なところからどんどんつくっていくことで、当事者意識のようなものが生まれてくると思いますし、それだったらこんな提言もしてみたいという声もどんどん集まってくるのではないかと思いますので、ぜひよろしく願います。	土井委員		児童遊園は大阪市の未利用地や民有地に設置された児童のあそび場で地域のみなさんが組織された運営委員会が管理されています。大阪市では児童遊園の美化、保全に関する補助金を交付し支援しておりますが、地域活動や区内で活動されているサークル等のアイデアでイベントの実施など、有効活用されることについて広報するなど応援してまいります。	地域協働課 (地域協働)

【当日出された意見等】

テーマ	意見内容	委員名	当日の回答・意見交換	対応	担当課
17	<p>私が勤めている日本語学校には、バングラデシュやパキスタン、ネパール等から留学生が来ていますが、その学生たちに聞くと、チームをつくって公園でクリケットをして遊んでいるようです。中には、母国ではプロでやっていた人や、友達がプロのクリケット選手をやっていた人もいて、こういう人材がいるのであれば、何か国際交流ができないかなと思いました。</p> <p>スポーツや音楽は何か人をつなげる、すごく魅力のあるものだと思います。先日、終業式で簡単なクリスマスパーティーをやりましたが、音楽を流していると、学生が国籍を問わず、いつの間にか輪になって踊り出し一つになっているということがあります。そういうきっかけがあれば、国を越えて大正区で何かつながりができたらと思います。</p>	柘委員			地域協働課 (地域協働)
18	<p>鶴町でスーパーが1つ減ったため、もう鶴町地域にはスーパーが1つしかなく、どうしようかと言っていたときに、この秋からおおさかバルコープさんが移動販売車を稼働することになりました。どこからの発信か分かりませんが、うちのほうからもバルコープさんに掛け合い、移動販売をできないかと投げかけをさせてもらっていたと思います。</p> <p>私達は一民間企業、バルコープさんも一民間企業であり、社協や連合長会で話し合っ移動販売が実現したということを社会福祉協議会の記事で見ました。それこそビジョンにあった公民連携ではないですが、いろんな団体がつながって、今回、一つの事業、地域の資源が生まれたというのはすごくいいことだと思い、これがまた大正区における成功事例の一つかなと思っています。</p> <p>移動販売車自体も、場所によって多くの方が来たら長時間止まっているみたいで、またそこが買物に来られる方の一つのコミュニティになりつつあると聞きまして、やはりそれも「居場所」の一つになるのかなと思いましたが、今後も色々な方たちと企業、行政、団体が、何かそういうことで一つの社会資源が生まれるのかなと思いたので、スポーツ大会も一つのきっかけになるかもしれません。</p> <p>人と人が出会って、初めてそういうことが生まれるのかなと思ったので、鶴町の件は、大々的に大正区で自慢してもいいのかなと思いました。</p>	姉川委員	<p><松村委員> 今、本当に小さなスーパーが1つだけで、おばあちゃんたちが買物に行くにも大変で、どこかにそういうスーパーができないか話をしようと思っていまして、困っている声を聞いたふれあいセンターが、移動販売というのができる地域に持ってきて、これはありがたいなと思いました。</p> <p>私も先日初めて行きましたが、寒い日でしたが結構おばあちゃんも来て、今は自宅で顔を合わすということがなく、人との交流もないので、「元気だった」と声をかけることができ、これはコミュニケーションとしてもありがたいなと思いました。行ったことがない人に声をかけあって行くこともできるので、寒くても出てこようとする意欲や健康につながると思いました。</p> <p>やはり地域のつながりが大事ということを知ることができましたし、居場所づくりや色々交流を持つことが一番健康にもつながることかなと思っています。本当にありがたく思っています。</p>		地域協働課 (地域協働)
19	<p>経営課題4では、空き家の利活用や、産業を盛り上げようということに記載していますが、その指標が本当に地価でいいのかと思いついていました。そんなにすぐに地価は上がらないだろうし、逆に盛り上がってきたら地価が上がったら、私たちはやりにくくなったりするので、どちらかという地価は上がってほしくないと思うのですが、ほかに何か指標はないんですか。</p> <p>第1回会議の際に副区長が、人口の話だけでなく、魅力を上げないといけないという意見を言っていて、その魅力の測り方が地価ということに、すごく違和感を覚えました。魅力が上がったかどうかを見る指標というのも考えていけたらと思いますが、あまりピンとこないなと思って見ていました。</p>	南委員	<p><村田 副区長> 我々はまちのリノベーションを進めていこうと思っていますが、やはりまちの活性化というのは、その結果まちの価値が上がることと思っています。価値が上がるといことは、やはりそれは地価につながってくるのではないかなというふうに考えておりますので、今回こういう指標を設定させていただきました。</p> <p>指標として、人口もあるかと思いますが、最初に区長が申し上げたとおり、日本国中、人口が減ってきている状況のなかで、人口が本当にいいのだろうかということもあります。</p> <p>また、数字的に税収というのも考えられます。将来ビジョンの中で税収について取り上げていますが、U字で少し上がってきています。いろんな状況があって、何でそうなのかというのは、まだ分析しきれていないのですが、そういうものもあるかなと思う中で、税金というのも生々しいし、まだ我々も分析できていない中で、今回は地価と考えております。</p>	回答済み	地域協働課 (地域協働)

【当日出された意見等】

テーマ	意見内容	委員名	当日の回答・意見交換	対応	担当課
20 区政 会議	(角元委員ご提案の) マインドフルネスについて調べたら、瞑想や座禅等、心を静かにすることとあり、皆さんが心を静かにして、一体となって会合したらどうかというご意見ですが、皆さんどう思いますか。全員が一体となって、心を静めて会合をできるようにになりますか。ここでやるのであれば、会議前にやったらどうかと思うのですが。精神的に害になることもあると書かれてるので、どうかと思ってます。	竹村委員	<角元委員> 着いたばかりでワタワタしているところから、いきなり会議を始めるよりは、一旦落ち着かせてリセットしてから、「さあ、始めましょう」と言ったほうが、会話のキャッチボールがやりやすいという実感があるのでどうかと思ったのですが、この会議でやるのはちょっと違うと思うので、あくまで一つの意見として出させていただきました。やられる方は、会議前にされたらどうでしょうか。		総務課 (庶務)
21 トンボ ロマル シェ	この前、第2回トンボロマルシェに行きましたが、若い人がたくさんお見えになって、びっくりしました。地域の皆さん方は来られてましたが、結構若い人たちがたくさんいて、いいことだなと思いました。	竹村委員		第1回～4回までで約8,600人の方に来場いただき、来場者アンケートでは大正区に魅力を感じると回答された方が93.3%、本事業が区の活性化に繋がると回答された方も96.0%と非常に高い結果となっております。引き続き区の事業を通じて区の魅力発信を行ってまいります。	地域協働課 (地域協働)

【区長発言】

〔冒頭あいさつ〕

今年度、いろいろ議論を重ねてまいりましたが、今日の議題は『大正区将来ビジョン2025』という形で、その素案をお示しさせていただいております。また、皆様には事前に御意見も頂戴いたしまして、本当にありがとうございました。本日はその意見にお答えしつつ、ここでまた生の議論もしていただき、年明けにはビジョンの取りまとめを行っていきたくと考えております。このビジョンは皆様に事前にお示しした資料の中にもありますとおり、区の運営方針、あるいは事業・業務計画書の上位概念として中期的な計画をお示しし、区政会議の皆様、そして区民の皆様にも御意見を頂戴しながら練り上げていくもので、大正区の区政運営の根幹になるものというふうに考えております。今回の計画は、私の任期や大阪・関西万博の期限等、いろいろ加味しまして、少し短めの3か年の中期計画とさせていただきます。やはり区長が代わるとそれなりのビジョンを持って着任する方が多いので、区長の任期をイメージしながら策定していくことも必要ではということで、スタッフと議論をした上で、こういう形にさせていただいております。したがって、中期の計画ですので、今お示した冊子をもってがらりと大正区が変わるというものではないかもしれませんが、ここに書いてありますとおり、人口が減りつつあることや高齢化が進んでいるということ等を含めまして、少しずつ対応していく処方箋として書いたつもりです。中身としては、施策を4つの大きな束にまとめて、4つの柱としております。その4つの柱に加えて、共通の取組として、ICTや情報の広報の在り方等、区役所側の様々な工夫も併せて提示しております。本日、実りある議論、そして、私どもの示唆につながるような御意見を頂戴いたしますことを願っております。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

〔閉会あいさつ〕

いつも御挨拶だけでなく、本日の議論を振り返り、皆様の御意見を上げながら、さらにお答えしたりしてるんですが、少し時間も押しておりますので、かいつまんでの総括とさせていただきます。まず、角元委員が本日の議論の口火を切っていただいた外国人について、いろんな御意見をいただきました。例えば、外国人に優しい大正区というのが、多様性のあるべき姿なのではないかという視点。また、最後面白かったですが、外国のみなさんが公園でクリケットをしていたり、音楽流すだけで自然と集まっているという御意見。この辺もやはり外国人ならではの陽気さや、あるいは、裏返せば寂しさ等を示唆いただいた話だと思います。まとめると、多様性を大事にするまちであれば、大正区が日本人の方も含めて垣根が低くなるのかなというふうに拝聴しました。外国人との垣根が低ければ、外国人の方も居心地がよい。それがまた口コミで広がって、大正区を住むまちとして選択していただけるということもあるのかなと、ふと思いました。なので、最初に御提案があったように、人口も増えるのではないかと南さんの御提案にもつながるのかなと、示唆に富んだ話だというふうに拝聴いたしました。この辺りをセットで、これからは引き続き考えていきたいと思っておりますし、また、ビジョンの中に外国人の対応を、最初のところあたりで触れておこうと思いましたが、修正をしてみたいと思っております。ありがとうございます。つぎに、意外にも多かった御意見が自転車のマナー。私も東京から来たんですが、東京よりさらに大正区は自転車が疾走しています。これはなぜかという、東京にいと分かるんですが、東京は道があれだけ広くないんです。北川委員からも路地一本入ると狭いというお話がありましたが、少なくとも大正通のあの広さというのは、東京の者からすると目を見張る広さです。やはりそれは再開発をしっかりやった大正区の成果なんです、その分、自転車が疾走しています。なので、皆さんがおっしゃるように、このマナー啓発というのがこれから大事になってくると思うんですが、このビジョンの中ではなかなか触れにくいのですが、一つきっかけがあります。今年の4月に道路交通法が改正になり、ヘルメットが義務化されます。これは努力義務化なんです、大人もヘルメットがぶらなくてはいけない。今年4月に成立し、1年以内に施行ということなので、来年の4月には「大人もヘルメットがぶりましょう」キャンペーンを、多分警察さんがやり始めると思っています。この辺りの流れをつかんで、我々と大正警察さんと一緒に工夫して、マナー啓発もやっていければと思ったところです。その他、例えば「居場所」のイメージが湧かないという土井委員、まさにそうかと思っております。本日、縷々長い時間かけて御説明しましたが、「居場所」を私ども役所の者が説明しようとしても、あんなに長い説明になってしまうということで、御容赦いただきたい。正解がないんです。しかし、副区長が言ったように、地域を挙げて守っていく、地域こそが「居場所」というふうに感じていらっしゃる地域がたくさんあるのが大正区の強みです。それから、区役所に何らかの個別の場所が必要という場合は、それも利用してくださいと、その2本立てでいこうと考えております。その他いろいろ申し上げたいことはありますが、時間でございますので、今日はこの辺にしたいと思います。今年最後の区政会議、皆さん、長時間ありがとうございました。お疲れさまでございます。